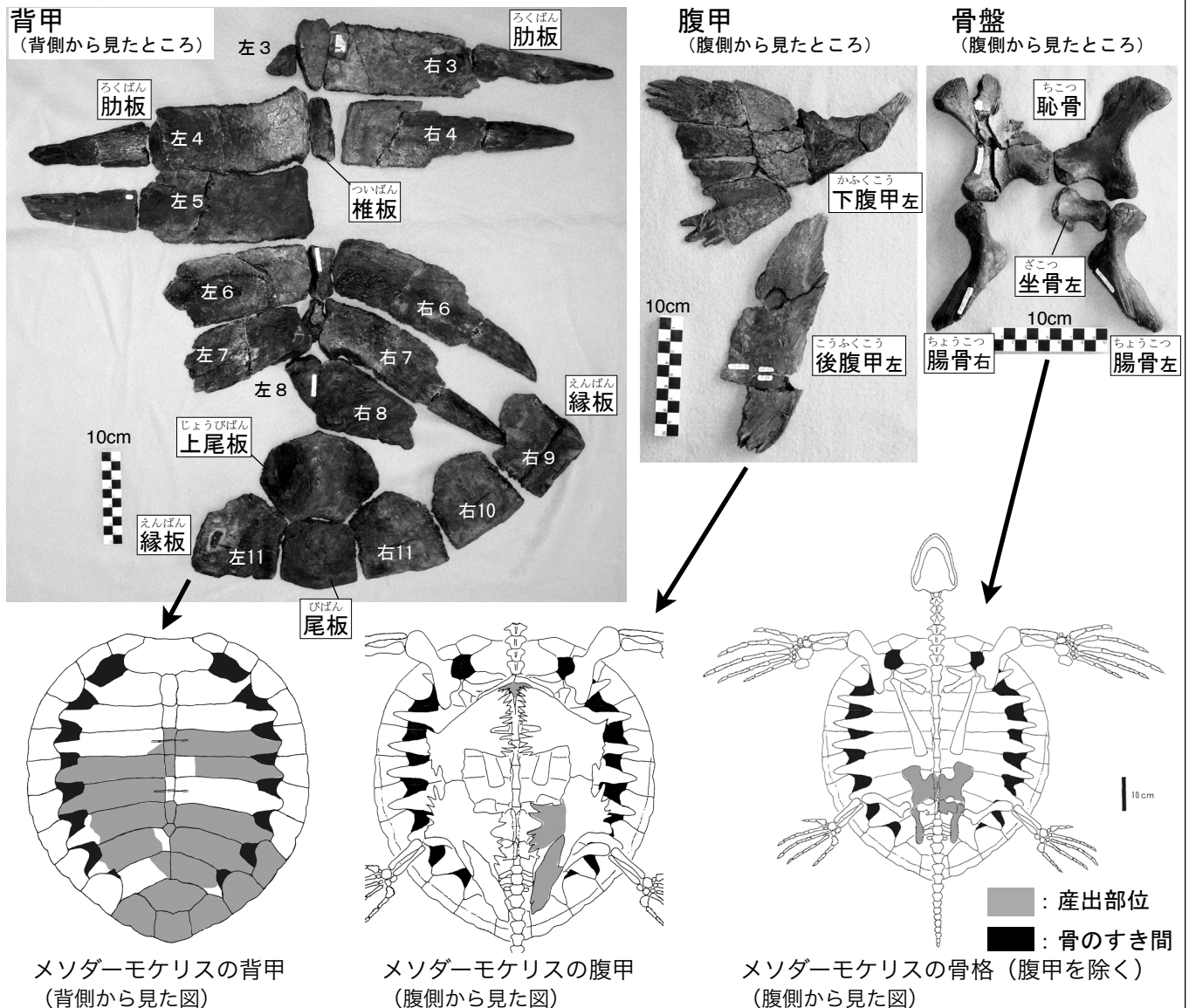




白亜紀ウミガメ メソダーモケリスHMG-1476 (打本標本)

クリーニング完了



2008年6月に打本普及員 (当時) が発見したメソダーモケリス化石 (HMG-1476) のクリーニングがほぼ完了しました。クリーニングによって取り出されたのは、胴体部分の中一後半部にあたる部位で、背甲 (第3～7椎板、第3～8肋板、第9～11縁板、上尾板、尾板)、腹甲 (内腹甲、左下腹甲、左後腹甲)、骨盤、仙椎、尾椎の一部の計60個以上となります。

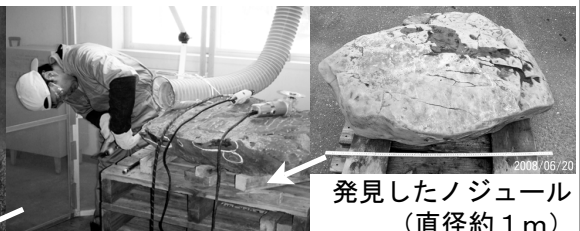
穂別地域は世界でも有数の白亜紀ウミガメ化石の産地で、断片的なものも含めて当館には20個体以上のウミガメ化石が収蔵されています。その中でも今回クリーニングしたHMG-1476のように多くの部位がまとまって産出する例はそれほど多くはありません。HMG-1476は当館所蔵のHMG-5 (模式標本、石崎・荒木標本、1980年採集)、HMG-369 (利光標本、1989年採集) などと同様に多くの部位が保存されているだけでなく、各部位の保存状態が良い点で貴重なものです。 (学芸員 桜井)

※図は、Hirayama and Chitoku, 1996より引用・改変

メソダーモケリスHMG-1476（打本標本）のクリーニング過程



取り出された骨化石はオモテをご覧ください



クリーニング作業の開始
(2009年2月)

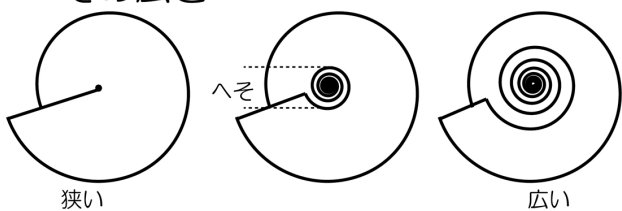
発見したノジュール
(直径約1m)
(2008年6月)

発見したノジュールは直径約1m、重さは200kgほどありました。採集には荒木新太郎氏、堀田良幸氏、堀田直幸氏、阿部利春氏にご協力頂きました。下山学芸補助員によってタガネなどを用いて岩石を削る方法に加えて、6カ月以上にわたる酸処理を行い、全ての化石を取り出しました。

大部分の骨化石が見えた状態 (2009年9月)

アンモナイトの描き方4

へその広さ



螺環（らんかん）拡大率

一巻きあたりどれだけ大きくなるか？



殻口のかたち

殻表面の凹凸の形状と殻口の形状を合わせる



殻の描き方のいくつかのコツを記します。

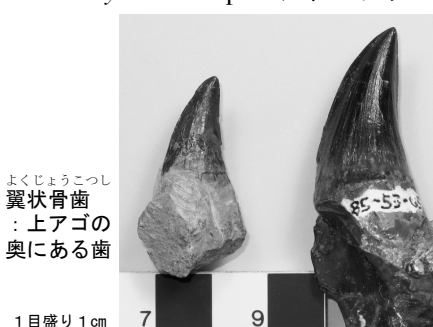
へその広さに注意して、外形を描きましょう。すこし難しいのですが、同時に外形の拡大率（螺環拡大率）にも注意して描くようにしましょう。

殻の表面には肋やくびれと呼ばれる凹凸がしばしば発達しています。これらの多くは成長線や殻口の形状と一致しています。殻口の形状を殻表面の凹凸の形状と一致させるとそれらしく描けます。

(普及員 西村)

11月3日（文化の日）・23日（勤労感謝の日）は町民無料入館日です

むかわの化石や生き物＜穂別の脊椎動物化石＞
Tylosaurus sp. ティロサウルス



HMG-371。モササウルス類の一種。ホベツアラキリュウ発見地点のすぐ近くにて1985年に金子由三氏（上川町在住）と地徳力（当館学芸員・当時）によって発見され、1994年発行の当館研究報告にて地徳によって*Tylosaurus* sp.（ティロサウルス・種未定）として記載された。複数の分離した歯の他、断片状の頭骨や下顎骨などからなる。展示室の復元模型は本標本に大きさを合わせて作製された。（学芸員 桜井）

2010年 11月							
日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	③	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	②③	24	25	26	27	
28	29	30					

■：休館日

○：町民無料入館日

11/1, 8, 15, 22, 29は通常の休館日です。

11/4, 24は祝日の振替です